

第26回 第2章 現代の経済

第3節 日本経済の発展と産業構造の変化

日本経済の現状

講師
篠田健一郎

学習のねらい

1990年代から今日に至るまでの日本経済の特徴を、「失われた十年」「構造改革がもたらしたもの」「世界金融危機後の日本経済」という3つの特徴ある時期に区分して理解しましょう。高度経済成長の時代を支えたさまざまな仕組みはどのように変わったのでしょうか。新自由主義的な改革によってもたらされた影響を私たちはどのように考えたらよいのでしょうか。皆さんと一緒に考えましょう。

調べておこう
覚えておこう

デフレスパイラル／不良債権／リーマン・ショック／
格差の拡大／いざなぎ景気／
金融の自由化／構造改革／東日本大震災

※下記の空欄 _____ を「調べてみよう 覚えておこう」の語句で完成させましょう。

POINT 1

失われた10年

1980年代後半から1990年代の最初にかけて、日本経済はバブル経済に沸きました。しかし、実態経済以上の景気拡大は後退局面に入ると深刻な不況にみまわれました。金融機関は貸したお金が返ってこなくなる^① _____ を抱えて融資がままならず、民間の設備投資も低迷しました。1991年からはじまる平成不況です。

1996年の橋本内閣による^② _____ をはじめとする日本版金融ビッグバンや1997年のアジア通貨危機の影響を受け、不良債権処理に行き詰った金融機関の破綻も起こりました。さらに^③ _____ が起こります。つまり、景気の低迷が物価の下落を招き、物価の下落が企業業績を悪化させ、賃金の下落や失業の増大を引き起こし、さらなる景気後退をもたらします。政府は景気対策のための財政出動として公共事業を拡大しました。しかし、景気は低迷したまま好転せず、さらなる財政赤字を残すだけとなりました。日本経済はバブル経済以前の活力さえ取り戻せませんでした。

POINT 2

構造改革のもたらしたもの

2001年に発足した小泉内閣は「改革なくして成長なし」「聖域なき^④ _____」を掲げて、規制緩和と自由化推進などの新自由主義的な制度改革を進め、経済の活性化を図ろうとしました。小泉内閣の下で金融機関の不良債権処理には見通しが立ち金融不安は収束に向かいました。アメリカを中心に世界的には好景気が続いていたことから日本からの輸出も堅調に伸

びました。2002年から2008年まで続く^⑤ といわれる景気拡大局面が現れました。大企業を中心に企業業績は伸び、失業者は減り、経済全体の成長率は伸びました。しかし、国民の間に経済格差が広がったのも事実です。働く人々の中でも比較的収入が高く安定している人々と長時間低賃金で働く人々の^⑥ が固定化していきます。

POINT 3

世界金融危機後の日本経済

いざなぎ景気は、2007年にアメリカでサブプライムローン問題が明らかになったことがきっかけで、終わりました。サブプライムローンとは、低所得者や信用力の低い人向けの高金利の住宅融資です。サブプライムローンで膨らんだ住宅バブルがはじけて景気が一気に悪くなったことからサブプライムショックとなりました。

サブプライムショックは、2008年になると、アメリカの大手金融機関の経営を揺るがします。倒産した銀行の名前にちなんで^⑦ といいます。これが世界経済に大きな影響を及ぼします。加えて、ギリシャ発のソブリン危機が世界経済を襲います。それでも金融危機から立ち直りかけていた2011年3月に^⑧ が発生します。地震と津波で大きな被害を受け、企業のサプライチェーンが寸断されました。原子力発電所は止まり火力発電などに頼ることになり電力不足にもなりました。火力発電用に輸入する原油が増えて日本の貿易収支は赤字となりました。2012年末に発足した第二次安倍内閣では、日本銀行と協調した大胆な金融緩和、インフラ整備などの財政支出の増加、女性の活躍推進などの成長戦略に代表される景気回復をめざす政策が示されました。しかし、日本経済は力を取り戻すまでには至りませんでした。加えて2020年から新型コロナウイルス感染拡大によりまったく新しい状況に陥りました。日本を取り巻く国際経済の様子もアメリカと中国の主導権争いという新しい状況にあります。日本経済の回復には私たち国民一人ひとりが知恵を絞り、熟議を重ね、これまで当然と考えられてきた社会の仕組みを根本的に変えていかなければならないかもしれません。

答え
①不良債権 ②金融の自由化 ③デフレ/スバィラル ④構造改革 ⑤いざなぎ景気 ⑥格差の拡大
⑦リーマン・ショック ⑧東日本大震災